

# 在沖米海兵隊のグアム移転事業の進捗状況

(「マスタープラン素案の概要」について)

平成 2 0 年 5 月

防 衛 省

# 在沖米海兵隊のグアム移転に係る合意

## ～ 新たな安全保障環境を踏まえた日米同盟の方向性について協議 ～

- ・2005年 2月 「2+2」共通戦略目標(第1段階)
- ・2005年10月 「2+2」役割・任務・能力(第2段階)  
在日米軍の兵力構成見直し(第3段階)
- ・2006年 5月 「2+2」「再編実施のための日米のロードマップ」

(「再編実施のための日米のロードマップ」より抜粋)

1 沖縄における再編

(b) 兵力削減とグアムへの移転

- 約8000名の第3海兵機動展開部隊の要員と、その家族約9000名は、部隊の一体性を維持するような形で2014年までに沖縄からグアムに移転する。移転する部隊は、第3海兵機動展開部隊の指揮部隊、第3海兵師団司令部、第3海兵後方群(戦務支援群から改称)司令部、第1海兵航空団司令部及び第12海兵連隊司令部を含む。
- 第3海兵機動展開部隊のグアムへの移転のための施設及びインフラの整備費算定額102.7億ドルのうち、日本は、これらの兵力の移転が早期に実現されることへの沖縄住民の強い希望を認識しつつ、これらの兵力の移転が可能となるよう、グアムにおける施設及びインフラ整備のため、28億ドルの直接的な財政支援を含め、60.9億ドル(2008米会計年度の価格)を提供する。米国は、グアムへの移転のための施設及びインフラ整備費の残りを負担する。これは、2008米会計年度の価格で算定して、財政支出31.8億ドルと道路のための約10億ドルから成る。

# グアム移転に伴う施設・インフラ整備にかかる経費の内訳

事業内容		財源	金額	
日本側の分担	司令部庁舎 教場 隊舎 学校等生活関連施設	財政支出 (真水)	28.0億ドル (上限)	
	家族住宅	出資	15.0億ドル	25.5億ドル
		融資等	6.3億ドル	
		効率化	4.2億ドル	
	インフラ (電力、上下水道、廃棄物処理)	融資等	7.4億ドル	
計			60.9億ドル	
米国側の分担	ヘリ発着場 通信施設 訓練支援施設 整備補給施設 燃料・弾薬保管施設 などの基地施設	財政支出 (真水)	31.8億ドル	
	道路(高規格道路)	融資 又は真水	10.0億ドル	
	計			41.8億ドル
総 額			102.7億ドル	

※1 事業内容については計画段階における見積もりに基づくもの。

※2 金額やスキームについては、今後変更があり得る。

※3 日本側の金額は総額に占める割合でコミットしたのではなく、施設やインフラの所要に基づき経費を分担するもの。  
経費については、今後、さらに事務的に精査される。このため、財政支出(真水)は上限としている。

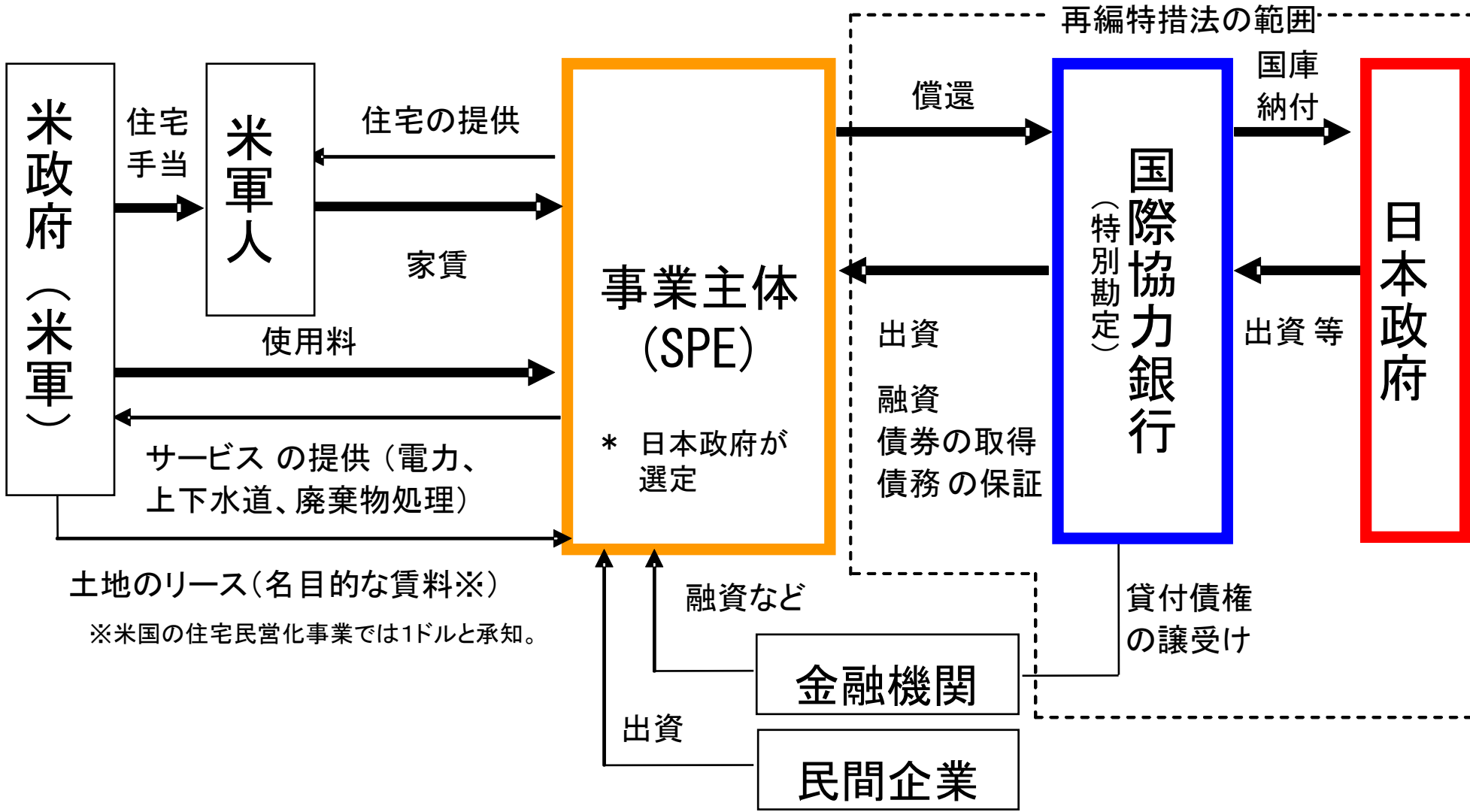
※4 家族住宅は、「効率化」の4.2億ドルにより、実質的には25.5億ドルから21.3億ドルに減額。

※5 出資や融資等は、米国が支払う家賃や使用料により将来回収される。

※6 沖縄からグアムへの海兵隊移動経費やグアムにおける海兵隊の活動経費は、総額102.7億ドルに含まれない。

# グアムにおける民活事業

事業全体のイメージ図



# マスタープランについて

- 「マスタープラン」とは、グアムに移転する在沖米海兵隊に限らず、グアムの米軍基地全体で、今後必要となる施設やインフラの詳細な配置計画。(空母の一時寄港用埠頭、陸軍BMD部隊、空軍基地能力拡張等を含む。)
- 今般、米国は「マスタープラン素案の概要」を公表。米側からは、環境影響評価手続きが終了した後、最終的なマスタープランが確定するところ、「マスタープラン素案の概要」に示される内容は、有力な案(Preferred Alternatives)の一つであり、変更があり得る旨説明あり。

## マスタープラン策定プロセス

注: NOI: Notice of Intent EIS: Environmental Impact Statement ROD: Record of Decision

### 【マスタープラン】

2008年4月

「マスタープラン素案の概要」(Overview of Draft Guam Joint Military Master Plan)の作成

2008年夏頃

「マスタープラン事務レベル案」(Working Level Master Plan)の作成

「マスタープラン」(Master Plan)の確定

### 【環境影響評価】

2007年3月

計画通知(NOI)の公表

2009年春頃

環境影響評価書の素案(Draft EIS)の作成

2009年末

環境影響評価書の最終案(Final EIS)の作成

2010年初頭

環境影響評価決定書(ROD)の署名



# 「マスタープラン素案の概要」(本文要旨)

## ■ 海軍コンピューター・通信基地フィネガヤン地区 ー海兵隊主要施設及び家族住宅

・司令部庁舎、隊舎、生活関連施設等に使用予定。

## ■ フィネガヤン南部一家族住宅

・居住地域に関する計画においては、海兵隊の住宅等が海軍コンピューター・通信基地フィネガヤン地区の南部分及びフィネガヤン南部に配置される。

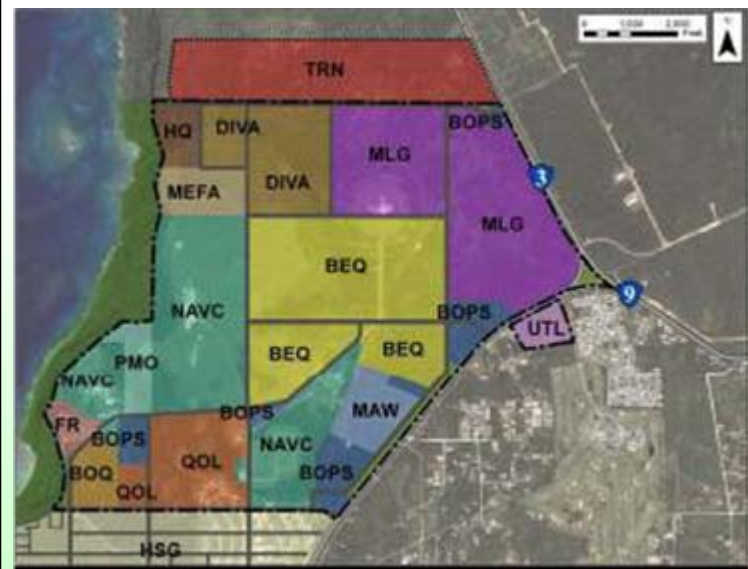
## ■ アプラ港

・海兵隊の支援等の目的でアプラ港の能力改善を行う。

## ■ 航空運用及び訓練(アンダーセン空軍基地 北部ランブ等)

・グアムにおいて運用される海兵隊の航空機を支援する運用施設等を配置。

# 「マスタープラン素案の概要」(施設配置図①)



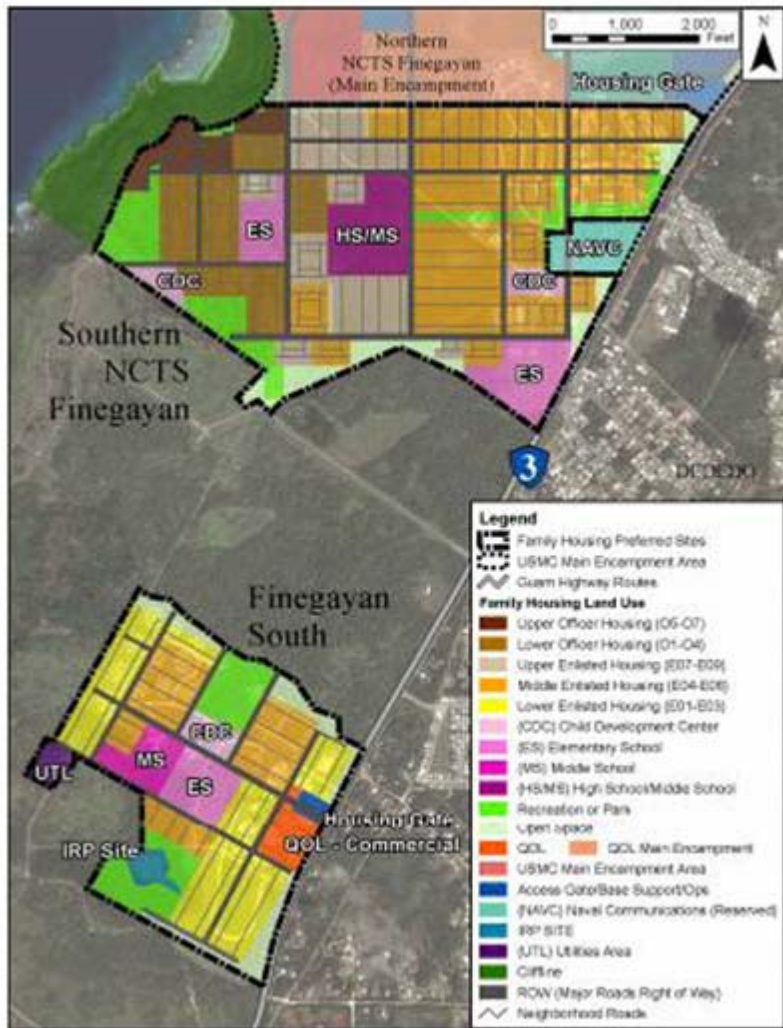
Legend	
[Red outline]	USMC Main Encampment
[Dashed red outline]	USMC Main Encampment Training Area
[Blue line]	Guam Highway Routes
Main Encampment Land Use	
[Yellow]	(BEQ) (325 ac.)
[Orange]	(BOQ) (30 ac.)
[Brown]	(HQ) Division/ III MEF HQ (28 ac.)
[Blue]	(BOPS) Base Ops/Support (84 ac.)
[Gold]	(DIVA) Division Admin/Ops (118 ac.)
[Light Blue]	(MEFA) III MEF Admin/Ops (43 ac.)
[Purple]	(MLG) (329 ac.)
[Light Blue]	(MAW) (25 ac.)
[Teal]	(NAVC) Naval Communications (353 ac.)
[Light Green]	(PMO) (30 ac.)
[Red]	(FR) Firing Range (19 ac.)
[Orange]	(TRN) Training Area (200 ac.)
[Light Orange]	(QOL) (106 ac.)
[Purple]	(UTL) Utilities Area (20 ac.)
[Green]	(OS) Open Space - Protected (224 ac.)
[Yellow]	(FAM) Family Housing Area (546 ac.)
[Light Green]	OS-Buffer Area
[Grey]	R-O-W (Roadways)

BEQ	独身下士官用隊舎
BOQ	独身将校用官舎
HQ	海兵師団及び第3海兵機動展開部隊司令部
BOPS	基地運用支援施設
DIVA	海兵師団管理・運用施設
MEFA	第3海兵機動展開部隊管理・運用施設
MLG	海兵後方群
MAW	海兵航空団
NAVC	海軍通信部隊
PMO	人事管理事務所
FR	実弾射撃演習場
TRN	演習場
QOL	生活関連施設
UTL	ユーティリティー地区
OS	空き地
FAM	家族住宅
R-O-W	道路

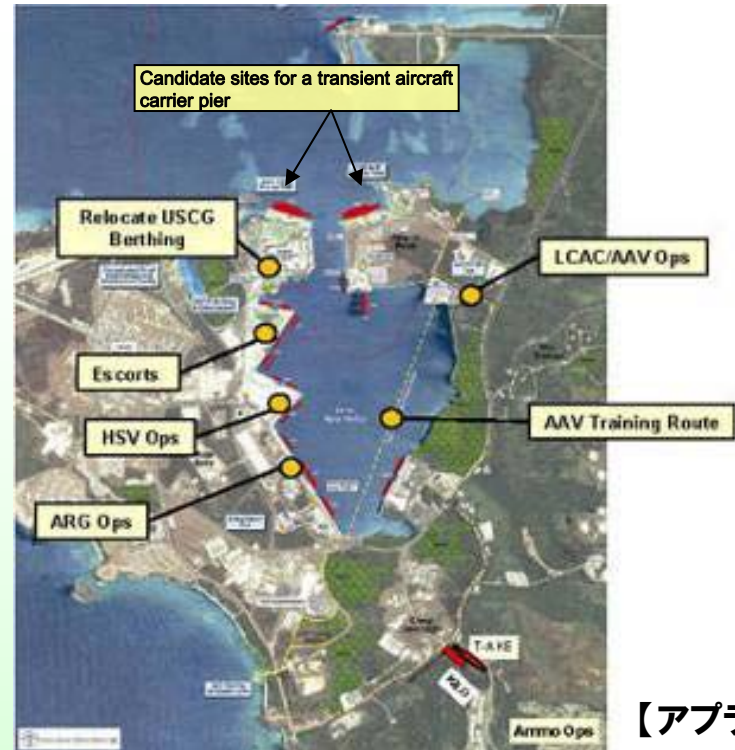
【海軍コンピューター・通信基地  
フィネガヤン地区(北部)】

※ 本内容は、依然として概念的 (notional) であり、今後変更があり得る。

# 「マスタープラン素案の概要」(施設配置図②)



【海軍コンピューター・通信基地フィネガヤン地区(南部)及びフィネガヤン南部(住宅地区)】



【アプラ港】

CDC	保育園
ES	小学校
MS	中学校
HS/MS	高校/中学校
LCAC	エアクション型揚陸艇
USCG	沿岸警備隊
AAV	強襲揚陸車
ARG	揚陸即応群
HSV	高速輸送艦
Escorts	護衛用水上艦

※ 本内容は、依然として概念的 (notional) であり、今後変更があり得る。